

**製品名: Tak1 (リン酸化 Thr184) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05517**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	77kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K7
別名	MAP3K7; TAK1; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 7; Transforming growth factor-beta-activated kinase 1; TGF-beta-activated kinase 1
遺伝子 ID	6885.0
SwissProt ID	O43318
免疫原	抗血清は、Thr184 のリン酸化部位周辺のヒト TAK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

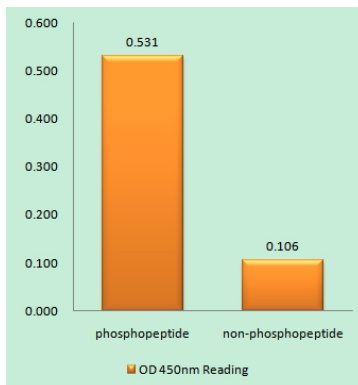
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーです。このキナーゼは、TGFβ および形態形成タンパク質 (BMP) によって誘導されるシグナル伝達を媒介し、転写調節やアポトーシスを含む様々な細胞機能を制御します。IL-1 に応答して、このタンパク質は TRAF6、MAP3K7P1/TAB1、および MAP3K7P2/TAB2 を含むキナーゼ複合体を形成します。この複合体は核因子 κB の活性化に必須です。このキナーゼは MAPK8/JNK、MAP2K4/MKK4 も活性化できるため、環境ストレスに対する細胞応答において役割を果たします。これまでに、異なるアイソフォームをコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素。TGF-β シグナル伝達のメディエーター。NF-κB 活性化および p38 MAPK 経路を刺激する。PTM: MAP3K7IP1 との結合により、自己リン酸化とそれに続く活性化が促進される。PP2A および PPP6C による Thr-187 の脱リン酸化により不活性化が誘導される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット:多分子複合体において上流活性化因子と下流基質の両方に結合する。MAP3K7IP1 および MAP3K7IP2 と相互作用する。PPM1L と相互作用する。PP2A および PPP6C との相互作用により、その活性は抑制される。、

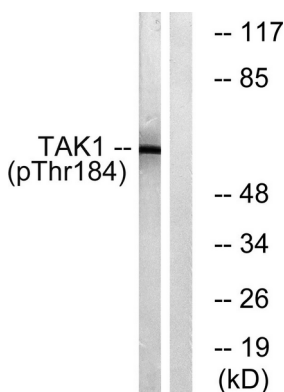
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;WNT;WNT-T CELLAdherens\_Junction;Toll\_Like;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;T 細胞受容体;

## 画像データ



TAK1 (リン酸化 Thr184) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



TNF 20 ng/ml 5 'で処理した HepG2 細胞のライセートを、TAK1 (リン酸化 Thr184) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。